

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
相談援助実習指導Ⅲ Guidance in Fieldwork of Social Welfare Ⅲ		2年	前期	別途、時間割表参照
単位数	授業の形態		授業の性格	
1単位	演習	選択	(社会福祉士国家試験受験資格取得必修)	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目(相談援助実習Ⅰの実習を終えた者)				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
大熊 信成	福祉棟3F	火～金9:00～17:00(授業時間を除く)	授業中に指示します	
授業の概要				
相談援助実習Ⅱを見据え、相談援助実習Ⅰの振り返りを行い、実習先機関・施設の利用者やニーズ、社会資源等の理解を深める。また実習先機関・施設等の関連法規からサービス事業を確認し、相談援助の役割について理解する。さらに相談援助実習Ⅱの準備あるいは実習中に自ら学習内容を求め取り組めるよう指導を行う。				
授業の到達目標				
①相談援助実習Ⅰの振り返りを行うことができるようにする。②相談援助実習Ⅱを行う実習分野(利用者理解)と施設・事業者・機関・団体・地域社会・職種等に関する理解を深めることができるようにする。③相談援助実習Ⅱで希望する実習機関・施設における相談援助について理解することができるようにする。④実習中の取り組み方、実習事後学習の概要について学習し、自己学習の方法や内容について理解することができるようにする。				
授業の方法				
講義および演習。実習の目的や流れ、各演習につながる内容については、随時講義を行う。実習領域の理解、実習施設・機関の研究はグループワーク中心で実施。自己紹介書・実習計画書の作成は個人ワークとして実施する。				
学習の成果				
①相談援助実習Ⅰで学んだ内容を報告書としてまとめ発表できる。 ②実習施設を選定、実習課題を立案することができる。 ③実習目的、具体的達成課題を立案し、実習計画書を作成することができる。 ④実習中に行うべき学習、事後学習に必要な学習を知り、自己学習の方法を身につけることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス(シラバスに沿って授業のねらいと進め方、成績評価の方法等を説明)			
第2回目	Ⅰ期実習の振り返り①:自己評価			
第3回目	Ⅰ期実習の振り返り②:実習記録の見直し、実習報告会の準備			
第4回目	Ⅰ期実習の振り返り③:Ⅰ期実習報告会			
第5回目	Ⅱ期実習施設選択作業・面接等			
第6回目	個別学習:実習施設・事業の理解			

第7回目	領域別グループ学習:実習分野、領域の政策動向等の理解		
第8回目	個別学習:実習先の実施事業と地域の理解		
第9回目	自己紹介書の作成・実習計画書の作成①		
第10回目	自己紹介書の作成・実習計画書の作成②		
第11回目	自己紹介書の作成・実習計画書の作成③		
第12回目	実習記録の書き方		
第13回目	実習関係書類の準備		
第14回目	事前訪問について		
第15回目	実習事前オリエンテーション		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		10%	授業への積極的参加を評価する。個人ワークを自主的に行い、授業に臨むことができる。
レポート		20%	提示するテーマについて自分の言葉で述べるができる。序論、本論、結論と3部構成になっている。
調査報告書			
小テスト		10%	毎回の授業において小テストやアクションペーパーを行う。学びの振り返りができる。
中間・学期末試験		60%	論述式・選択式で行う。
発表内容(態度含む)			
その他			
教科書と参考図書			
教科書:ミネルヴァ社会福祉士養成テキストブック「相談援助実習」川延宗之他/ミネルヴァ書房(相談援助実習指導Ⅰと同様)			
履修上の心得・ルール			
実習に関する諸連絡があるため授業は必ず出席すること。欠席した場合は、内容をクラスメイトに確認し、書類や課題は次回授業までに担当教員まで取りに来ること。課題の提出期限は厳守。			